

■ロシア：モスクワ、10月から公営施設で省エネ型電球の買い替えを義務づけ

2009年9月26日付の地元紙によると、モスクワ市のルシコフ市長は、市内のすべての公共機関・組織に対し、10月1日から白熱電灯の購入中止を義務づけたと報じた。今後、市内のすべての公営施設において、球の切れた白熱電球は、省エネ型電球に替えられることになる。電球がロシア大の省エネの取り組みの端緒となるという市長の考えから始まった。電球の取替は、1年半程度をかけて行われ、通常の予算の範囲内で行われる。市の広報によると、省エネ型電球の消費電力は白熱電球の1/5とされており、耐用年数は15年に達するとされている。なお、モスクワの公営施設の消費電力量は年間約30億kWhとされており、そのうち照明用が20～30%を占めている。